青木の風

生きる　創る　そして輝く

学校だより８・９月号

令和５年８月２８日
横浜市立青木小学校

「百聞は　一見に如かず」を大切に― 青木の学習で大切にしたいこと ―

校長　後明　好美

子どもたちの明るい笑顔と元気な姿が学校に戻ってきました。暑すぎる毎日ではありますが、子どもたちの笑顔は夏の太陽にとてもよく似合います。休み明け、子どもたちが徐々に学校生活のリズムを取り戻せるよう、丁寧に支援していきます。

実際に　触れて　感じて　考えること ― ダンゴムシの赤ちゃんと　ピーマン ―

休み前のことになりますが、教室を回っていると、２年のあるクラスが楽しそうな大騒ぎになっていました。教室に入ってみると、「（生活科の学習で飼育している）ダンゴムシの赤ちゃんがいなくなった！」と、子どもたちが懸命に床を見つめて探しています。１ミリほどのダンゴムシの赤ちゃんを探し出そうとしている中、ある子が**「お母さんなら、必ず子どもを見つけられるはず！」**と、成虫のダンゴムシを床に置きました。自分のこれまでの経験から、お母さんは必ず子どもを見つけ出してくれるものだと、確信できているのでしょう。別の子は、**「好きな食べ物でおびき寄せてみよう。」**と枯れ葉を床に置きました。学習の中で知った餌の知識を駆使して、問題を解決しようとしている姿にも感心しました。

別の日、同じく生活科の学習で育てている野菜の観察をしていると、一人の子が**「ピーマンが帽子をかぶっている。」**とつぶやきました。ピーマンの萼（がく）を、その子は「帽子のようだ」と例えて表現したのです。担任の先生はその素敵な気付きを周りの子に、上手に広げていきました。すると、「ほんとだ！」「よく見たら、わたしのミニトマトにも帽子がついてる！」と、その気付きが各々の野菜を詳しく見るきっかけになり、「ピーマンは暑いから帽子をかぶるのかなあ。」と、自分の経験と重ねて考える子も出てきました。「そうかなあ。でも、タンポポにもこの帽子みたいの、ついていたよ。」と、春の様子や国語の「たんぽぽのちえ」の学習を思い出して、たんぽぽとピーマンを比較しながら考える子も出てきていました。

青木の子どもたちが、**目の前で起きている事象を、自分の経験や既習に基づいて例えたり、つなげたりしながら思考を広げ、深めている**様子に、見ていてうれしくなりました。

豊かな体験と深い思考

豊かな体験があると、子どもたちは自分のこれまでの生活経験や学習内容と関連させて思考したり、比較したり例えたり類推したりと、高度な思考をすることができるのだと思います。

百聞は一見に如かずのことわざ通り、学校では体験したことから考えたり、体験しながら考えたりすることも、大切にしていきます。

残り少ない８月、そして９月もどうぞよろしくお願い申し上げます。